

地域の概要及び課題

【地域の概要】

- 松永湾は尾道市東部に位置し、瀬戸内海国立公園に含まれる海域。古くは塩田として開発された歴史がある。
- アサリの産地として知られ、「山波の洲」は潮干狩りで有名
- 湾中央にはアマモ場もあり生物多様性に富んだ漁場であった

【課題】

- 塩田閉鎖後は埋立てが進み干潟面積が減少、海水温上昇や食害もあり、アサリの漁獲量が激減。潮干狩りで海と人が繋がる里海としての姿も減退してしまう

取り組みの実施体制、連携

PJチーム

- 当漁協（応募主体）
事業統括、保全活動の実施、指導
- クニヒロ：藻場・干潟等の日常の保全活動
- 復建：ブルーカーボン、生物多様性調査
- HAD：多様な主体との連携促進

外部連携先



R6年度モデル事業における取組内容および成果

①ヒトの多様化

- 松永湾に関わる方を増やすべく学生や企業を活動に巻き込んでいく

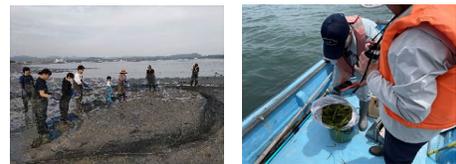


【成果】

地元小学校へ出張授業、地域大学との共同授業、複数企業のボランティアによる再生活動の実施

②生物の多様化

- 生物多様性にあふれた松永湾復活に向け、干潟・藻場再生活動



【成果】

アサリ育成のための干潟再生活動、アマモ移植

③機能の多様化

- 漁場に加え観光地としての機能の多様化を目指す



【成果】

エコツアー造成に向け尾道観光協会と継続的に協議実施、山波アサリの販売会として「アサリ祭」実施

④持続可能な組織による永続的運営

- 多様な主体の参画に資するプロジェクト実行計画の策定
- 独自財源の開拓・多様化を目指してクラウドファンディングを実施



【成果】

第1目標・3,000千円、第2目標・5,000千円も突破（最終的に6,455千円の寄付獲得）

今後の課題および取組方針

- 当プロジェクトを永続化するに当たり「①ヒトの多様化」での以下が優先課題

優先課題1_複数の関係者を調整するHUB人材の育成

優先課題2_科学的な知見を有する専門家の継続的な関与

取組方針

2025年1月20日に公募開始の令和7年度「戦略的令和の里海づくり基盤構築事業」に引き続き応募、ビジョン達成を目指す